

若年性脳梗塞 新治療が注目

福井赤十字病院

脳の血管が詰まって脳組織が壊死し、その部位や程度によっては重い後遺症を残す脳梗塞。中高年以上に多くみられるが、10〜30代の若年層で発症する場合も少なくない。この「若年性脳梗塞」の原因の一つである頸部(首)の過剰な動きに起因する動脈解離に対し、福井赤十字病院(福井市)では、副作用を伴う薬を使わずに解離を修復し、再発を防ぐ新たな治療に力を入れている。

(前田和也)

若年層が脳梗塞になった場合、心臓や脳血管の疾患、あるいは血液の特殊な病気がまず最初に疑われるが、スポーツや仕事などで過剰に首の運動をする機会が多いことから、首の

た血管の治療には、血管内の壁が裂けて血栓が生じやすくなる動脈解離。解離し

首の動き制限し動脈解離修復

副作用なく再発予防



る若年層の脳梗塞の治療に
ついて話す戸田部長(福井
市の福井赤十字病院)

し、やはり抗血栓薬を内服
せずに再発の予防が可能に
なる。

同病院脳神経外科の戸田
弘紀部長によると、椎骨動
脈の異常はしばしば見落と
され、原因不明の脳梗塞と
して扱われるという。「若
い人が脳梗塞を患い、その
原因が分からない場合には、
首の血管、特に椎骨動
脈を調べることが大事」と
戸田部長は訴える。

を意図的に詰めたり、ステ
ントという道具を用いて血
管の壁を修復したりする
が、通常これらの治療後
は、「抗血栓薬」という出
血が止まりにくくなる副作
用がある薬を長期間内服す
る必要がある。

ただ、過剰な首の運動が
原因とみられる場合、運動
を制限して安静を保つと、
その間に血管内膜の再生
が進み、解離が修復される
傾向がある。そうすると抗
血栓薬の内服は不要。仕事
や生活習慣などで運動を
制限することが難しい場合
には、脊椎を固定する手術
により首が動きすぎない
患者にとり、とても意味
のある治療だ」と話してい
る。

戸田部長は「副作用のある薬
が要らなくなるため、中
高年に比べてより長期間
の経過観察が必要な若い
患者にとって、とても意味
のある治療だ」と話してい
る。